平成30年12月18日（火）　朝日　毎日　読売　西日本　日経　産経
朝刊　夕刊　（23）頁

唾液のにおいで口腔がんを検出

北九州市立大など開発

北九州市立大と九州歯科大（北九州市）の研究グループは、唾液に含まれるにおいを持つ成分から、口腔がんを見つける技術を開発したと発表した。専門誌の電子版に掲載された。がん患者と健康な人の唾液に含まれる特徴的なにおい成分の違いを、確認したという。簡単で迅速ながん診断への利用が期待される。

北九州市立大の李丞祐教授らは、口腔がん患者と健康な人計20人から唾液を採取し、数百ある揮発性のにおい成分から、がんの有無で検出されたり、不検出だったりする特徴的な成分としてエタノールなど12種類を特定した。このうち特に4種類で高確率で違いが現れるといい、これらの特定は世界初だとしている。

呼気を採取してにおい成分を検出する研究も進められているが、唾液には持ち運びしやすいという利点があるという。

においを再現して機器に記憶させることができれば診断が可能となる。九州歯科大の安細敏弘教授は「患者が歯科医院のいすに座った状態で、負担のない診断ができる」と話した。